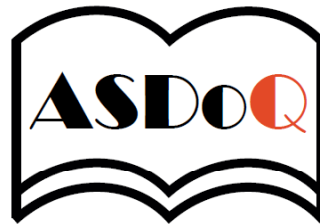


システム開発文書品質研究会（ASDoQ）



読み方：アスドック

種別	任意団体
設立	2011年7月11日
会員	個人会員（64名），法人会員（11社）（2012.8.24現在）
会費	原則無料
参加条件	・ASDoQ著作物の取り扱いに合意すること。（著作権は，著作者に属する。 著作者は，著作物の使用・複製・改変・再配布を認める。）
活動	定期研究会：一年に3～4回 技術発表，作業部会の報告
	ASDoQ大会：一年に1度開催予定
	ワークショップ：特定のテーマを合宿で集中討議
	作業部会：現在は3テーマを設置し，具体的な課題に取り組む。（ロードマップ部会、用語定義部会、人材育成部会）

研究会の目的

1. 文書品質の提案
2. 計測技術の研究
3. 文書品質の普及



(参考) 設立当初に考えていた素朴な疑問

- ・ 開発文書の品質を明らかにし、それを高めることを目指せば、システム開発は今以上に、開發生産性と開発品質を高められるのではないかな？
- ・ ソースコードは、様々なメトリックスが計測され、その品質が議論されているのに、なぜ、仕様書や設計書などは、手がつけられていないのか？

理由1：顧客要求に応えるために

- 背景

- ＞ A社は、B社製品の受託開発を行う
- ＞ 設計からテストまでを一括で実施
- ＞ プログラムコード以外に設計書類をB社へ納入

- B社の依頼

- ＞ 設計書の価値を証明してほしい

- A社は「質」と「量」を数値化したが、客観性が高くB社の納得が得られていない

開発文書の質を計測する方法を
ASDoQで議論し透明性を高めたい

理由2：上流工程の仕事が多くなるので

- 下流工程から上流工程へ
 - ＞ 実装やテスト作業は，アウトソーシングが進む
 - ＞ 開発ツールの進歩により，実装の自動化が進む
- 上流工程の成果は，開発文書で表現
 - ＞ 顧客には開発文書を納入する
 - ＞ 顧客は納品物を評価する
 - ＞ 開発文書の質が悪ければ，仕事を失う

顧客に評価されるように
上流工程の開発文書を書きたい

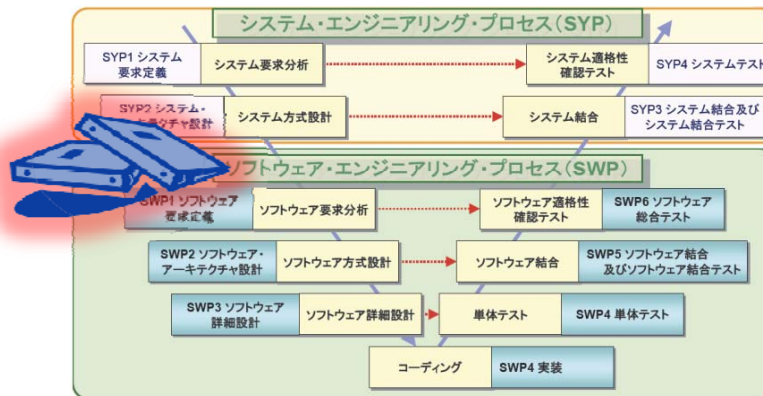
理由3：開発作業の質を高めるために

- 質が低いと，開發生産性と製品品質が低下
 - ＞ 曖昧な仕様記述なので，何度も問い合わせる
 - ＞ 設計意図が伝わらずに，誤った実装をする
 - ＞ メンバ間で責任の押し付け合いが始まる
 - 》仕様書や設計書の品質が悪いから，テストデータを作ることができない（テスト工程）
 - 》不具合報告書の文書が下手だから，デバッグできない（設計・実装工程）
 - ＞ 開発文書に書かれないので，暗黙知に依存するようになり，生産性と品質が人に依存する
 - ＞ 組織としての成長が進まない

開発時の品質を高めるために
質の高い開発文書を作成したい

理由4：見積もり精度を向上するために

- 開発工数の見積もりを高い精度で行うことが必要
- 開発文書の質と，開発工数の間に，相関が認められるだろうか
- もし，相関があるなら，見積もり精度が向上する



開発文書の質を計測すれば
開発工数が予測でき、
ビジネス成功の可能性が高まる



開発文書の質を計測し
開発工数との相関を求めたい

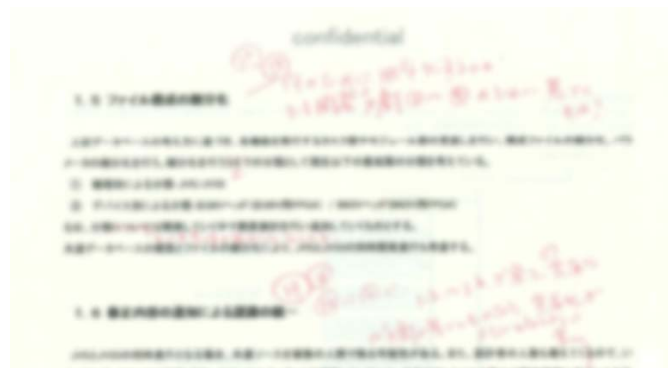
理由5：ビジネスや技術の変化に対応するために

- ISO9001に準拠するために、開発プロセスの構築が必要
 - ＞ プロセスに準拠したことを示す帳票をISOの審査員は確認したが、開発文書の中身までは詳しく読まなかった。
- 機能安全規格に準拠するために、トレーサビリティが必要
 - ＞ 仕様書や設計書の中身が確認される（はず）
- 第三者検証を受けるために、開発文書は必須
 - ＞ 第三者にも分かるように書く
- 形式手法で開発するために、高品質な開発文書が必要
 - ＞ 論理式で書いて矛盾が生じないように書く

時代の変化に対応するために
質の高い開発文書を追求したい

理由6：人材育成のために

- 質の高い開発文書を作成する技術者を育成することで、前述までの理由に応える
- 仕事を通じて作成する開発文書に対して、レビューや指導を行うことで、着実にOJTを進めることが可能
- 良い開発文書例と悪い例を作り、事例を踏まえて学習できるようにしたい



赤ペンが入った
開発文書の例

質の高い開発文書を書く
開発技術者を育成したい

『ASDoQメンバと一緒に 「あいまいな日本語表現」を体験しよう』

講師: 山本 雅基 (ASDoQ/名古屋大学)

セッション目的

「あいまいな日本語表現」という「敵」を知りつくします。
そうすることで、表現に対する感度を高め、文書作成力を
向上させます。

セッション内容

- ・ あいまいな日本語表現の分類の紹介
- ・ 分類ごとにあいまいな日本語表現の例文を作成
- ・ 例文を相互に発表し「あいまいさ」を味わい、どうすれば
良い表現になるかについて検討

ASDoQ大会2012

テーマ「開発文書の新しい時代を切り拓こう！」

- 日時：2012年10月5日（金） 10:00 ～ 20:00
- 場所：愛知工業大学 自由が丘キャンパス（名古屋）
- プログラム
 - ＞ チュートリアル
 - 》『もう苦しまない開発文書のとらえ方と書き方』 塩谷 敦子（ASDoQ, イオタクラフト）
 - 》『機能安全準拠開発に必要な文書技術の基礎』 森川 聡久（ASDoQ, ヴィッツ）
 - ＞ 講演会
 - 》基調講演 『未定』 山本修一郎（ASDoQ, 名古屋大学）
 - 》招待講演1 『「よい文書」とは何か—技術文書の論理と倫理』 戸田山和久（名古屋大学）
 - 》招待講演2 『利用者主導情報システム開発における成果物の管理と運用 -- AIST包括フレームワークに基づく自治体情報システム開発 --』 和泉 憲明（産業技術総合研究所）
 - 》組織紹介1 ASDoQ 『ASDoQの1年3カ月』 山本 雅基（ASDoQ, 名古屋大学）
 - 》組織紹介2 産業日本語研究会 『産業日本語研究会の活動と規格化日本語』 井佐原 均（豊橋技術科学大学）
 - ＞ 情報交流会, ポスター発表
- 参加費 (*) 早期割引は, 9月5日までのお申込み分に適用されます
 - ＞ チュートリアル ￥2,000 (早期割引*) ￥3,000 (通常価格)
 - ＞ 講演会 ￥2,000 (早期割引*) ￥3,000 (通常価格)
 - ＞ 情報交流会 ￥3,000